

日本スポーツプレス協会会報 NO.12 NOV.20, 1996

# AJPS NEWS

ASSOCIATION JAPON DE LA PRESSE SPORTIVE



## アトランタから長野へ

Interview  
Photo & Essay  
News/Information

「白馬の風をつかめ」  
スリーピートの満足感

**PENTAX Konica DESCENTE Nikon HCL**  
**Canon SHASHIN kosha Kodak FUJIFILM MINOLTA**



日本ではマイナースポーツのアイスホッケー。しかし、この地球上に存在するさまざまなスポーツのおもしろい部分を集約しているのがアイスホッケーだと私は思う。15年近くアイスホッケーを撮影しているが、なかなかよい写真が撮れなくて欲求不満になっている。しかし、写真展でその不満ながらも自分で気に入った写真を展示してみて、今まで気づかなかつたアイスホッケーの世界を発見した。



#### プロフィール

内ヶ崎誠之助 Seinosuke Uchigasaki

1957年7月9日生まれ 立教大学卒業  
富士写真フイルム(株)宣伝部での撮影および撮影助手を経て、1986年フリーランスとなる。サッカー、ラグビー、アイスホッケーなどを中心に撮影活動をし、1993年よりカナダ・カルガリーに住み、NHL(ナショナル・ホッケー・リーグ)など、主に北米スポーツを撮影している。

#### 目次 CONTENTS

- 3 Interview  
『白馬の風をつかめ』
- 6 アトランタから長野へ
- 8 Photo & Essay
- 10 デジタルカメラリポート
- 14 新賛助会員紹介
- 15 News/Information

## HEAT&COOL

<スポーツの季節感>

佐瀬 稔

'96年1月末、プロ野球のキャンプを見に行ったとき、アリゾナには夏の太陽が照り、冬の風が吹いていた。うっとりと10日間ほどをすごして日本に帰り、東京で1泊後、宮古島に行く。ここはまぎれもない春爛漫。ブルーウェーブの練習を見ながら、ネット裏でついウトウトしそうになる。

宮古島から那覇へ。北から南へ渡り歩いて最後、ドラゴンズの北谷で震えあがった。異常寒気に正面衝突したのだ。ものみごとに風邪を引き、ふうふういいながらジャイアンツの宮崎へ。バッファローズの日向は小雨。雪になるのではないかと怯える。このあたりから、わけがわからなくなり始めた。

3月、タイソンの試合を見にラスベガス。昼間はブルサイドにゴロゴロしているピキニどもをまたいでプレス・センターに通い、夜はダウンのベストを着て餃子定食を食いに行く。7月、口サンゼルスのドジャー・スタジアム。独立記念日の翌日、野茂の登板日、敬意のしるしとしてスーツにネクタイで出かける。8-1。野茂、勝つ。夜、リトル・トウキョウの寿司屋へ。

ロスからアトランタへ。4年前、ニューオリンズの「ザ・トライアル」(米陸上五輪代表選考競技会)を行ったとき、ディープサウスの狂熱にフラフラしていたら、アメリカ人記者に「アトランタの夏はこんなものじゃないぞ」とおどかされたが、そのヒートにドカーンと迎えられた。オリンピック開幕1週間前には、これも話に聞いていた「アトランタ・サンダー・ストーム」も経験した。開幕したとたん、妙に涼しくなり、あっという間に百年記念大会が終わる、帰国、すぐ大阪埠市に行く。アトランタが懐かしくなるほど暑い。0-157の現場を這い回り、8月末、またラスベガス。今はいったいいつなのか、いったいどこにいるのか。

そして9月末。メジャー・リーグの地区フレイオフからワールド・シリーズまでを見に行こうと思っているのだが、行く先がなかなかきまらない。今、スタート地点の選択肢としてあるのはモントリオール、セントルイス、ロサンゼルスの3都市。モントリオールはもう寒いはずだ。ロサンゼルスの昼間はTシャツ1枚ですむだろう。しかし「野茂用」のスーツはいる。11月にはもう一度、ラスベガス。夜は寒く、昼はおそらく暑い・・・。季節感? 今ごろは多分、太平洋上のどこかを彷徨っているのではないか。季節に日雇いで雇われている労働者の1年一。

## INTERVIEW

# 白馬の風をつかめ

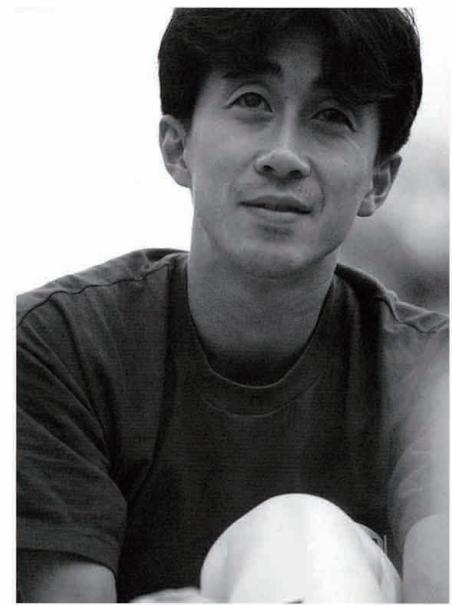
## 原田雅彦 インタビュー

by Hiroko Yamasaki

photo by M.Arakawa

アトランタオリンピックで熱狂していたのは、いつのことだったのだろうか……そう思うほどに、人々の関心はあっという間に薄れ、その目はすでに長野へと向けられようとしている。

その長野オリンピックで注目を集めそうのが、「94年リレハンメルオリンピックにおいて、金メダルをほとんど手中にしながら失敗ジャンプをした、あの原田雅彦選手。着地をして頭を抱える原田。一瞬落胆の色を見せながらも、原田のもとに駆け寄り、銀メダルを讃えるチームメイト。気まずそうな、それでも憎めない笑顔を見せた原田は、いまどんな思いで、長野オリンピックへと向かっているのだろうか。



#### トントン拍子で世界ジュニア選手権へ

— アトランタオリンピックは見てましたか。

「はい。一般化して見てましたね。スポーツが好きですから、どんな活躍をするかというのは非常に楽しみでしたけど」

— そもそもオリンピックを意識し始めたのはいつ頃ですか。

「あんまり考えてなかったですね(笑)。オリンピックに出たくてスキージャンプを始めたわけでもないですし、笠谷選手らの日の丸3本という記憶もありませんし。8歳のときに始めたんですけど、スポーツ万能なガキで、近所で評判だったわけですよ(笑)。上川町っていう小さな町にいたんですから、それ違う人みんなが『こんにちわ』って挨拶するぐらい有名人といふかね。それで、スポーツ少年団の指導者の方に、遊びでもいいからやってみないかと声をかけられたのがきっかけで」

— それから、トントン拍子に世界まで行った感じですか。

「とんとんですね。中学大会も優勝しましたし、高校の時も優勝しました。それから中学3年生のときから世界ジュニア選手権の代表になりましたしね」

— 初めて日本から飛び立ったとき、カルチャーショックはなかったですか。

「その頃の私はクソガキでしたから(笑)。物怖じしないし、来るなら来いみたいな感じでしたし。でも成績は36位ぐらいで、やはり世界の大きさを感じましたね」

— 世界に出て、意識が変わったということはありますか。

「まだそこまでいってませんでしたね。国内ではトップだし、あんまり苦労もしないで世界ジュニア選手権ぐらいなら行けるしね。絶対こいつらには勝ってやるという思いはその頃はなかったですね」

— じゃ、いつ頃から世界を意識し始めたんですか。

「アルベルビルオリンピックの頃に、上位に顔を出すようになってきて、その頃からだと思います。その前のシーズン、「91年の夏にV字スタイルにしたんですけど、当時はV字ジャンパーというのは世界的に見てもあまりなかったんです。いち早く取り入れるのは不安でしたけど、ノリみたいなもんですね。やっぱり頂点に達したいという思いが強かった。だからV字でもなんでもいいやと、だめだったら、また元に戻せばいいやというぐらいの気持ちでエンジンしたんですけど、飛距離も伸びてきて、自分でもやれるんだという自信が湧いてきましたね」

最初は外国選手に対して、どうしてかわないと悪いがありましたけど、それもV字スタイルに変えてから抜けました。僕だけじゃなくて日本選手全體のレベルが上がって、日本の誰か一人が前に出ると、そいつを目指して、あいつに出来るんだって俺にも出来るというやつがたくさん出てきて、コンプレックスもなくなりましたよね」

— そして'93年は世界選手権で優勝したんですよね。  
「お陰様で(笑)。まさに、してやったりでしたね。アルベルビルオリンピックで入賞を果たして、ワールドカップでも上位に望める位置にいたけど、さすがに優勝とまではいかないだろ



photo by J.Tsukida

うと思ってた時に、優勝しましたんで。試合運びみたいのが自分なりにうまくいったんだと思うんですね。なにかその日だけは、自分のために地球が回ってたような感じがしましたし。それからは、もう大騒ぎでしたよ。世界選手権で金メダル取るなんていうことは、笠谷選手がオリンピックで金メダルを取つて以来だということですね」

「でも背は、冬季五輪って注目されてなくて、夏季の影に隠れてる形でしたけど、それについてはどう思ってましたか。『しょうがないですね。結局カルガリーとかサラエボもジャンプは惨敗だと言われましたし。やはり笠谷選手の栄光があるもんですから、それと比較するどうしてもね』

「じゃ、成績がよくなれば、きっと注目されるんだろうという感じだったんですか。『そうですね。でも私自身が注目されたいという意識は特にないんですけどね。ただジャンプが好きで、1mでも飛距離を伸ばしたいというふうに思ってるだけですよ。競技会に対して、肩に力が入ってるという感じも、いまはないです……』

「でもそういう時期もありましたよ。世界選手権のあの、リレハンメルオリンピックという、あの問題の（笑）」

「はい（笑）、問題の。」

### 踊っていて自分を見失っていた

「その頃は競技っていうのにこだわりすぎて、完全に自分を見失っていたんじゃないかなと、いまは思いますけどね」

「報道のあおりに乗せられたという感じもありますか。」

「うーん、でもね、周りの選手が新聞に出てるのに、俺だけ出ないといふのが寂しいですからね（笑）」

「じゃ、あまりプレッシャーになることもなく。『當時は盛り上がりましたからね。より一層期待されて、確かに踊らされてたところもありますね。新聞を見ると、原田はメダルだって書いてあったりして、自分も踊るんですよ（笑）、やっぱり。『おーっ、俺メダルか』みたいな』

「でもプレッシャーを感じてるようには見えませんでしたよ。『そう見られるのがいやなんですよ。あ、あいつ硬くなってる、大丈夫か、なんて言われるのが一番きらいで。わざと余裕があるように振る舞うんですよ（笑）。いま思えば、それが完全にマイナスだったんですよね。まあ、そういうのが影響したのかどうかわからないんですけど、もっと自分の技術にこだわるべきだったんですよね。前の年に世界一になったという自惚れみたいなのがあって、大丈夫だよ、オリンピックでも一発大砲撃つてあげるから、みたいな安易な考えでいたから、ああいう失敗しちゃったんだと思うんですね』

「飛び出た瞬間に失敗かどうか分かるんですか。『分かるんですよ。やっぱと思いましたよ（笑）。これを飛べば金メダルだということに対してはプレッシャーはなかったんですけど。でもスタート台に立ったとき、失敗するんじゃないかなといふ思いとの闘いででしたよ』

「飛び終わったときは、どういう気持ちだったんですね。『やっちまった、ですよね。でも失敗しても、ずうずうしくも1位にならないかなと思ったんですよ。で、掲示板見たら2位と出て、ああ、自分の失敗ジャンプによって金メダルを逃したと。もう何も考えられないですよね』

「その日は、いつもと違うなという感じはなかったんですね。『いや、ワールドカップのときと同じようにアップもこなし、スタート台に上がったはずなんですかね。でもいま思えば、その年のワールドカップでも同じ失敗を何回もしてるんですよ。1回目のジャンプはすごい大ジャンプをするけど、2回目に大失敗というのをね。でもそれが分かんない。そこで冷静になって、なぜ失敗するのかということをオリンピックまでに追求していくべきだったんですけども、大丈夫だよ、オリンピックは絶対成功させてやるという思いが強すぎて、いつも同じ失敗を、オリンピックで、あのときにやってしまったということですね』

「でも大変だったでしょう。あれを見て、競技をすること、競技で勝つことの難しさを、改めて感じましたけどね。そのショックからはすぐ立ち直れたんですね。」

「いや、次のシーズンまるっきりダメでしたね。踊ってたのかな、まだ。やはり銀メダルということで評価も高かったですし、僕も帰ってきて胸も張りましたからね。それで、いままではトップは俺だという気持ちがあったんですけど、僕より飛距離を伸ばして、僕を越えていく若い選手がポンポンと現れたわけですよ。それがやはり自分自身の動揺を誘ったんでしょうね。次の年、世界選手権があったんですけど、私は欠けですから」

「みんなと一緒に行動するのが苦しかったんじゃないですか。『ええ。弁当持ち、スキー持ち、ワックス持ちですから（笑）』

「でも若い選手が金、銀って取ったのを見てかえって刺



激されました。どうやって冷静に自分をつかみ直すかというのは、彼らから教わったところがありますね。みんなが飛ぶ姿を下から見て、やっぱり第一人者となって飛ぶべきだとふっさげたんです。というのは個人戦では金、銀を取っても、団体戦はまた金メダルが取れなかつた。で、団体戦で優勝しているチームの中には、必ず誰か一番遠くまで飛ぶ人がいるんです。そういう選手がいないことには、チームも盛り上がりがないというかね。そういう選手が日本にも必要だと思ったんです。そういう選手になるしかないというふうに思いました」

### 2回目を最後に飛ぶ味わい

「それから、何か変えたことはありますか。」

「いや、ないです。というか、それまでが変えようとしてたんです。若い選手が極限に達するようなテクニックで飛距離を伸ばすようになって、僕もそうしないと飛距離を伸ばせないと思って、どんどんそれに挑戦していったんです。そしたら、自分の力というものを、かえって見失っていました。飛距離がどんどん落ちていくわけですよ。」

「だから、自分には自分のジャンプがあるから、それをもっと追求するべきだというふうにたて直しが始まったわけですね。夏の間、ずっとトレーニングを重ねて、ワールドカップの開幕戦には代表に選ばれて、で、3戦目には優勝できて。ワールドカップの中盤には、またジャンプがおかしくなったときもあるんですけど、すぐに自分に戻すことができて3勝したんです。こんなにとんとん拍子に来るはずじゃなかったんですけど」

「いまは1回目にトップにたつことはザザで、そうすると2回目は一番最後に飛ぶわけで、すごいプレッシャーも感じるんですよ。そういう経験がこれからもっと必要ですね。そういう積み重ねが、例えば長野オリンピックにも生きられるんじゃないかなと思いますけどね」

「その長野オリンピックは、今まで以上に報道合戦になると思いますが。」

「覚悟してます。もう3回目ですし心得てますから。ま、踊らなないように（笑）。ジャンプだけでなく、いろんな経験をしてきてますから、自分でうまくコントロールしていかないとダメだなと思いますしね。それに新聞に載れば田舎のおじいちゃんやおばあちゃんが喜ぶわけですよ。僕が勤めてる雪印乳業も喜ぶ（笑）。そういうこともありますからね」

「でも選手側から見て、報道のあり方について、何か言いたいことはありますか。」「どうしますかね。困りましたね（笑）。いやあ、ですから、……そうなんですね（笑）。」

「私生活まで食い込んでくるとか。」



「前のオリンピックのときは、いまのかみさんと、婚約中だったんですよ。ですから、おまえ家でテレビ見てたら、絶対マスクが来ると。それでノルウェーまで呼んだんですよ。実家の両親もノルウェーに来てた。それはよかったですけど、ぜんぜん関係ない兄貴夫婦がテレビにバッチリ映ってましたね。失敗ジャンプについて語ってるんですね、うちの兄が（笑）。」

「でも、僕はあんまり気にしない方ですからね。解釈が違うふうに伝わっても、もっとうまく伝わるように言えなかったのか」と、反省しますしね」

「まったく違うことを書かれたことはないんですか。」「ありますよ。なんでこういうことになっちゃったかなって。でもわざわざ新聞社に電話するわけにもいかないですもん。まあ、私はいいんですけど、周りの人はやっぱり傷つきますよね。ますいですね。ちょっと控えて欲しいですよね（笑）」

「いまは当然、長野オリンピックを目標にしてるんですけど。もちろん長野では金メダルも欲しいんですけど、そんなにがんじがらめにならないスケジュール作りをしてるつもりです。いまの目標は自分自身に勝つことです。トレーニングにしても、なまけるのは自分ですから、それに打ち勝っていくこと。ライバルは自分だと。テクニックというのは求めてないんですよ。どういう精神状態で飛ぶかということを考えトレーニングしてますね。たとえば長野オリンピックを想定したり、大観衆をイメージして飛んだりね。そういうことが必要だと思うし、実際の経験も無駄にしないんですね」

「今日一緒にトレーニングしていたのは、どういうメンバーなんですか。」

「全日本スキー連盟から選ばれたAとBランクの選手が全部で10名いて、その下のC、あとウェイティングがいるんですよ」

「ウェイティング……すごい呼び名ですね（笑）。」「待ってるんですよ。待機してるんですよ。ケツ突っくんですよ、グッ（笑）」

「そう笑いながらも、白馬ジャンプ競技場で豪快なジャンプをみせる原田。若手が幾度となくジャンプ台に上がり、数をこなしていくのに対し、1回1回をかみ締めるように、じっくりと飛んでいく原田。あのリレハンメルの悲夢を振り払おうとするでもなく、過剰な闘志を見せるでもなく、ただただ自然に、ただただ遠くへと、風をつかんでいった。」

協力 雪印乳業株式会社



## アトランタから長野へ

文 折山 敏美  
text by Toshimi Oriyama

### 利益優先のオリンピック

陸上競技場からメインプレスセンター(MPC)に帰ろうと、プレスバス発着所に急ぐと待っていたのはMTM(メディア・トランスポーター・モール)行きのバスだけ。「どのくらい待てばMPC行きのバスがくるのか」とボランティアに聞けば、「15分くらい」という答えが帰ってくる。ところが、待てど暮らせどMPC行きのバスは来やしない。その間MTM行きのバスは3台発車し、さらに2台も待っている。増えてきたプレスから「どれか1台MPC行きに変更すればいいじゃないか」と声があがるが、ボランティアも運転手も、「このバスはMTMに行くことに決まって」の一点張り。万事がこんな調子なのだ。下手に怒っていたら、アトランタではストレスが溜まってしまうだけ。

組織委員会では「最高の大会」と自画自賛したアトランタ五輪だが、実態は御承知の通り最悪。MPCが半径2.5kmの、自慢のオリンピック・リングのほぼ中心部に位置したから便利かと思ったのだが、それは見事に裏切られたのだった。プレス

町を十字に貫いているだけで、駅からのアクセスはバスや徒歩。その地下鉄も満員のことが多く、夜中になると数本は待たないと乗れない状況。またタクシーも、道筋を良く知らない運転手が多く、プレス入口までと言うと、「そんなの知らない」と怒鳴りだす運転手までいたのだ。多くのプレスから「最悪のオリンピック」という声が上がったのもしかたないだろう。

巨大化したオリンピックを国の援助なく開催することを考えれば、今回のアトランタがとった方法も利にかなったやりかただと言えるだろう。施設建設費の儉約は必要なことだ。その点ではこれからの開催地が参考にすべきものではある。しかしアトランタで感じたのは、単なる経費節減のオリンピックというより、儲けるための経費節減という印象が大きかったことだ。<sup>84</sup>ロス大会で商業化を押し進めたアメリカが、今度はけちることで利益を上げようとしたオリンピックであったといえる。前評判に比べ、意外なほど成績の上がらない日本勢の状況も手伝い、疲れは倍増してくるようだった。

### インフラ整備は誰が払う

長野の場合、既存施設の利用という面では完全に無理があった。ほとんど施設がない土地での開催であり、施設建設は最初から予定されていたものである。そのためN A O Cでは「施設建設費は市と県の管轄」と言っているが、大きい意味でオリンピックを考えたら、かかっている費用は莫大。新幹線や高速道路建設こそ市や県の負担にはならないが、見た目にも豪華な施設建設のツケはどうしても市や県に残ってしまう。国は主要施設の50%以内を負担するというが条件だったが、他の金は県や市の負担。彼らは「借金はない」というが、現実は地方交付金などを前倒しで使用しただけのもの。五輪の後の公共事業にしわ寄せがくるのは必至のことなのだ。

確かに五輪などの大会の開催は、昔のように国威発揚的な意味合いはなくなっている。だが、五輪が

これだけ巨大化した現在、自治体や民間まかせの大会ではなく、国が大部分を関与するような形態にならなければ、様々なところにしわ寄せが出来てしまう気がする。

さて、早々と運営費の赤字の見通しを発表した長野五輪だが、その運営を予測してみると不安だらけだ。今年のアルペンW杯で見せたように、天候への不安も大きい。気象条件こそ運を天に任せるしかない問題だが、最悪を想定した準備をしておいて欲しいというのが、現場で仕事をする我々の偽らざる心境だ。

さらに問題になるのが交通アクセスだ。長野市内はまだましましても、白馬へのアクセス。

五輪道路は出来たとうが、雪が降ったなかで予定通りの時間でたどり付けるのだろうか。プレスの場合も世界から7000人のメディアを想定しているが。メディア村に収容できるのは半数の3500人。他是ホテルに収容ということになるが、そのホテルの目処もまだたっていないという。N A O Cでは上田市あたりのホテルを使用する事も考えていて、「軽井沢で行われるカーリング

の取材などには便利」などと言う。しかし現在でも上田-長野間は電車でも30分ほど。そこから白馬に移動すると、どのくらいの時間がかかるかわからない。また長野市内や白馬村の交通規制をどうするのか、どちらも道は狭くすでに出来ている計画では不備だらけで不安は大きい。ボランティアを含め、どこまでその場その場で柔軟な対応が出来るかが課題になるだろう。

また取材する側から見ると、カメラマンの撮影ポジションなどの問題がある。特に不満を感じさせるのは、ジャンプ会場での撮影ポジションだ。9月に行われたサマージャンプ大会でも、カメラマンに与えられた場所はK点の下の土手の一部と、カンテの近くのみ。普通大倉山などだと、飛距離測定員の反対側が撮影

ポジションになるが、白馬の場合は飛距離測定や飛行審査の邪魔になるからということらしい。他に逃げるといつても、山肌に這わせて作った台ではないため、場所の確保は難しい。使用していない台からの撮影はOKというが、それも遠すぎて…。この問題などは、カメラマン側から強く要望していかなくてはいけないことだろう。今季はW杯も開催され、外国プレスからもクレームが付くことは十分予想されるので、N A O C側がどう対応していくか注目したい。



合も撮影場所の問題は出てくるだろう。「自然に優しく」というスローガンを立ててしまったからか、コースは可能な限りコンパクトな設計になっている。たしかにこの競技は日本では人気のないものだろうが、観客を入れるキャパも少ないようで、撮影場所となると更に苦労しそうなのだ。

### 「地元の利」はどこへ！

今回異常なほど期待を寄せられたアトランタ大会だったが、長野になると地元開催だけに、さらに注目が集まるだろう。そんななかで大会を成功させる重要な要素が日本勢の活躍である。そのための強化は、と考えるとこれまた疑問だらけだといえる。特に冬の競技の場合、試合会場

に慣れるなどで地元の利を十分生かせることが多い。だがそれを出来てないかというと、否としか答えようがない。特に期待の大きいスピードスケートでは、連盟が予定していた夏場の使用が無理だと判断した。これは設計段階からの問題といえるが、現場と建設側の意思の疎通が無かったということの現れだ。「昨シーズン、カルガリーであれだけの成績が出了たのも、毎年夏の合宿で使っていてホームリンクのようになっているからです」と関係者はいう。ところが長野の場合使用できるのは冬のみで、滑り込みは出来ない状況だ。またこれこそ地元の利を生かせそうなボブスレー、リュージュは引き渡しが12月1日。W杯に出場してポイントを取っておかないと、条件のいいグループで滑走出来ないという条件もあり、シーズン中はほとんど使えない状態。「面白いコースですよ、地元の利を生かせれば」という関係者の苦笑がよくわかる。ほかにも、バイアスロンも大会以外は許可が下りなくて、五輪会場で射撃の練習は出来ない。またクロスカントリーやボブスレーなどのコースの場

スカントリーコースも、世界でも有数な厳しいコースだと自慢するが、それはパワーに勝る外国選手に有利なコースという評判もある。

アトランタが終わり、いざ長野へという現在、どちらかというと期待より不安の方が大きいのが実情だといえる。さらに不安なのは、施設の後利用などの問題。今関係者にとつては、長野の16日間だけが目標のようになっている。一般的に馴染みのない競技の多い冬季大会こそ、そんな競技を普及させるという意味も持っているはずだ。五輪を機会に長野をアイスホッケーやボブスレー、リュージュのメッカにするというような、長い目でみた五輪効果を考え欲しいものだが…。

## スリーピートの満足感



写真・文 西口 末広  
photo & text by Suehiro Nishiguchi

ブルズファンによる歓喜の優勝カウントダウンが、試合終了30秒前からスタジアム全体に響きわたり、「10・9・8・・・・3」とカウントの最後が歓声で聞き取れなくなると同時に、3連覇（スリーピート）を達成したブルズの選手達も興奮の絶頂に達して、身体全体で喜びを表わしていた。ゲーム前に、NBA国際担当の「ゲーム終了後は、コートに入らないように」との注意らしき言葉を耳にしていたので、85mmか180mmのどちらかでマイケル・ジョーダンを撮影しようと思いついた。ところがワイドレンズをセッティングした何十ものカメラマンがゲームが終わらないうちからコートのM・ジョーダンを取り囲んでしまい、私一人だけ完全に出遅れてしまった。

M・ジョーダンの歓喜のポーズを撮影することを最大のテーマにしていた私は、遅ながらも2mを超す大男達が暴れている歓喜の渦の中に突撃して、M・ジョーダンを追っかけ回して、最後の最後にイメージ通りに撮影することが出来た思い出の写真が、このカットである。

93年は、NBAのゲームを30試合前後取材する機会に恵まれた。私達、フリーランスが一番に苦労する取材申請の方法が、サッカーのようにチームで申請するのではなく、NBA本部が一括して申請を受けて各チームに取材許可を求める方法でシステム化されていたので、許可、不許可の確認を本部に取れば良かったのは気楽だったが、チームからの返事が本部に届くのが遅いときもあり苦労した面もあった。しかし、プロ・スポーツビジネスの最先端の組織だけあって、本部の広報担当や各チームの広報担当は大人の雰囲気を感じる対応で私を受け入れてくれた。また、取材する側もルールを守りながら深追いせずに取材している姿勢は、日本のスポーツマスコミとの姿勢のちがいを見せつけられ考えさせられた。反面、プロとして取材するにあたっては、多少の深追いもしなければいけないジレンマを私は感じた。そんな中、20世紀最後のスーパースターと言われているM・ジョーダンでさえ、ホームゲーム終了後のロッカールームでバスタオル姿のまま試合に関する取材に何十分間も答えさせる、アメリカプロスポーツ界の経営理念とそれを当然のこととして取材に答えていたM・ジョーダンのプロフェッショナル魂にも関心させられた取材だった。

この写真は、私がスポーツカメラマンとして初めて、シャッターを切った瞬間に自分のイメージ通りに撮影出来た喜びを噛み殺しながら、自分以外に撮ったカメラマンがいないか回りを確認させるほどの決定的なショットだった。しかし、私以外に一人だけ同じシーンを撮影していたAP通信が世界中に配信し、その組織の大ささにショックを受け、個人として営業力の無さを痛切に感じさせられた一枚の写真でもあった。

# DIGITAL CAMERA REPORT

## プロ用デジタルカメラ使用体験記

富越正秀

by Masahide Tomikoshi

近頃、デジタルカメラの世界が注目されています。プロ用から一般用までの各種のデジタルカメラが各社より次々と発売されていますが、はたしてそれらのデジタルカメラは我々プロスポーツカメラマンの強力な武器に成りうるのか、大変興味があるところです。デジタル写真とは? デジタル写真で何ができるのか? デジタル写真のメリットとデメリットは? デジタル写真の伝送は? デジタルカメラの操作性及び価格は? そしてデジタル写真での著作権は? といくつもの疑問がありますが、今回はそのプロ用デジタルカメラを実際に使ってみての体験レポートを書かせていただきました。

現在発売されているプロ報道用デジタルカメラは、コダックがキヤノン/EOS 1N用とニコン/N90用にそれぞれ画像記録解像度が違うタイプとして制作した6機種、富士写真フィルムとニコンが共同開発した2機種、そしてミノルタが独自で開発した1機種があります。

今回テストで使用したカメラはEOS/DCS 1、EOS/DCS 3とDS-505Aです。

### コダック社製 EOS/DCS 1、EOS/DCS 3

EOS/DCS 1、EOS/DCS 3とも外見は同じでカメラを持った感じはキヤノンEOS 1Nにキヤノン・ハイスピードモータードライブをつけたかのようです。今回テニスの伊達選手を撮影するためEOS/DCS 1に400ミリF2.8レンズをつけファインダーを覗くと18.4×27.6mmのフレーム枠が見え、その枠内が撮影範囲であるため400ミリレンズが1.3倍の520mmの画角と同じになります。撮影感度は約ISO800のため昼の屋外なら問題なく、このときもF2.8で1/500で撮影しました。カメラとレンズの操作は普通のEOS 1Nとほとんど同じですが、連続撮影は秒間約0.6コマで2カットまで、その後約4秒間撮影デジタルデータがカメラのハードディスクカードに書き込まれるのを待たなければなりません。このハードディスクカード(170MB価格79,000円)には約26コマしか撮影できませんが、1画像に25秒程の音声メモが内蔵マイクで録音できるのは、撮影説明や状況を記録するとき便利です。また、撮影データにはそれぞれの撮影日時、時間、露出、フォーカスマード、使用レンズも記録されます。出来れば撮



EOS/DCS 1 (600万画素) ISO 80 1/500 F2.8 CANON 400mm F2.8 使用

影者のデータも入れられればより良いではないでしょうか。

このとき撮影した伊達選手の写真は、プレスルームのデジタルプリンター:XLS8600でA4サイズにデジタルプリントしたところ、撮影データに一切の手を加えずに出力したにもかかわらず、プリントの出来はすばらしく、ボジフィルムで撮影してダイレクトプリントに伸びたとの区別がつかない程でした。その写真ならば週刊誌の表紙にその場で入稿出来ると思いました。またF2.8で1/1000秒で撮影した一絞りアンダーの撮影データからでき問題なくプリントでき、その気になれば2絞りアンダーでも画像処理ソフト、フォトショップ等を使えば容易に再現できそうです。そして、何といってもデジタルカメラの素晴らしいところは撮影後の処理の早さでした。伊達選手の試合が終りインタビューの頃には彼女の写真がプリントされ、レイアウトも可能な状態で、印刷所にそのデジタルデータを送ることもできるわけです。

### KODAK Professional EOS/DCS 1 Digital Camera の主な仕様

記録媒体	170MB カード型ハードディスク (PCMCIA ATA 規格準拠)
撮像素子	6 0 0 万画素
有効画素	3 0 6 0 × 2 0 3 6
撮影枚数	2 5 枚 (170MB カードの場合)
使用レンズ	キヤノン EF レンズ
感度	ISO800 (カラ)、ISO2000 (モノ)
測光方式	キヤノン EOS-1n と同様
露出補正	キヤノン EOS-1n と同様
シャッター速度	キヤノン EOS-1n と同様
ファインダー	100%
視野率	約 1.62 (幅) × 0.9 (奥行き) × 2.12 (高さ) mm
寸法	約 1.8 kg (レンズとカード型ハードディスクを除く)
重量	¥3,600,000
価格	

次に使用したのが EOS/DCS3、外見はEOS/DCS1とはほとんど変わりなく、違うところは記録できる画像サイズ (CCDの画素数) が約1/5の130万画素(ちなみにこの頃発売されている一般用のデジタルカメラで30万から80万画素) ということです。CCDのサイズが小さいためファインダー内のフレーム枠も16.4×20.5mmと小さく、レンズの焦点距離は1.7倍のレンズと同じ画角になるので300mmのレンズを使うと500mmのレンズと同等になります。1コマ分の画像データが少ない分、同じ170MBのハードディスクカードに120コマ撮影でき、秒間2.7コマで12カットまで連写可能となります。また、撮影感度がISO200～ISO1600で使用できるため、屋内やナイトゲームのスポーツ撮影に適しています。

東京の国立競技場で夜のサッカー試合、清水対川崎戦の取材のため、EOS/DCS3に300mmF2.8のレンズをセットし、感度を800に設定、いつものリバーサルフィルム(EI 2400)の撮影データF2.8、1/500秒で撮影したところ十分綺麗な映像の上がりが得られました(写真A)。フィルム感度的にはISO800のネガフィルムで撮影したのと同じで、ボジフィルムの増感現象によるシャドウ部のツブレもなく、A4サイズにプリントしても驚くほど階調再現を示しましたが、それ以上拡大するとノイズや四角いピクセルの形が見えてきます。カメラ自体の問題点とすれば、シャッターのタイムラグが少々あり、EOS 1Nと比べてやや遅くなるように感じられました。また秒間2.7コマというのは30年前のモータードライブカメラと同じで、現実のスポーツシーンの連写では使いにくいと思います。10コマ以上も連写することは分解写真を撮影する以外はほとんどないため、せめて秒間4.5コマで5カット連写が望ましいところです。

### 富士写真フィルム社製 DS-505A

この9月に前モデルDS-505より20万円も安くなっている新しく登場したDS-505Aを手にしてまず驚くのは、カメラボディが中判カメラ645のような形をしていることですが、そのハンドリングは横位置、縦位置とも決して悪くありません。ニコンのレンズがほぼ画角通り



(写真 A) EOS/DCS 3 (130万画素) ISO 800 1/500 F2.8  
CANON 300mm F2.8 使用



(写真 B) DS-505A (130万画素) ISO 3200 1/500 F2.8  
NIKON 300mm F2.8 使用

・写真は3点とも画像データをそのまま入稿しました。

使えるので、ワイド系のレンズも使用可能です。ただし従来の35mmのフレームサイズより横の長さが若干短めで6×7の比率に近くなります。気になる点といえば視点の角度によってファインダーがけられることです。

このデジタルカメラはレンズに関係なく絞りがF6.7-F38にしか設定できず、室内や夜に行われるスポーツで使えるか疑問でしたが、国立競技場での夜のサッカー試合の取材の折、F6.7 1/500秒 ISO3200で撮影して十分な画像が仕上がりました(写真B)。撮影時の

### FUJIX Digital Card Camera DS-505A の主な仕様

記録媒体	PCMCIA Release2.1 準規 PCカード (ATA) 2/3インチ VT 方式、約 130 万画素 カラー CCD 1.28 0 × 1.0 0 0
撮像素子	有効画素 6 0 0 万画素
撮影枚数	3 0 6 0 × 2 0 3 6
使用レンズ	H/5 枚、Fine/21 枚、Normal/43 枚、 Basic/84 枚 (使用時) F マウント フィルムレンズ (一部制約あり) ISO800/3200 (2段階切り替え)
感度	TTL マルチターゲット測光、TTL 中央部重点測光、 TTL スポット測光、切り替え可能
測光方式	ISO800/3200 (2段階切り替え)
露出補正	± 2 EV (1/4EV ステップ)
シャッター速度	S/M モード時: 1/2000 秒～1/8 秒 (1/2段刻み) P/A M モード時: 1/2000 秒～1/2 秒 (1/12段刻み) 同調速度 1/250 秒以降
ファインダー	9.8% 1.64 (幅) × 1.20 (奥行き) × 1.40 (高さ) mm
視野率	9.8%
寸法	約 1.64 (幅) × 1.20 (奥行き) × 1.40 (高さ) mm
重量	約 1.72 kg (バッテリーを含む)
価格	¥8,900,000

### MINOLTA RD-175 の主な仕様

記録媒体	PCMCIA ATA カード
撮像素子	1/2 インチ 3.8 万画素 CCD × 3
有効画素	1.528 × 1.146
撮影枚数	9 2 枚 (MAXTOR 社製、105MB カード の場合)
使用レンズ	ミニルダムレンズ
感度	ISO800
測光方式	TTL 開放測光
露出補正	± 3 EV
シャッター速度	1/2000 秒～1/2 秒 (同調速度 1/90 秒以下)
ファインダー	9.0%
視野率	1.61 (幅) × 1.28 (奥行き) × 1.45 (高さ) mm
寸法	1.1 kg (電池別)
重量	¥6,800,000

シャッターのタイムラグは心配された程ではありませんでしたが、シャッターボタンから指をはずすと、十数秒で電源がオフになります。次のシャッターチャンスに大きなタイムラグが生じます。これはニコンカメラ全体に通じる点だと思いますが、スリープモードになる時間の設定を長くする改良を望みます。

このカメラで撮影されたデータはすべてイメージメモリーカード(5MB 35,000円、15MB 100,000円、20MB 120,000円)に記録され、最も一般的なカードHG-15(15MB)にファインモードで21コマ、ノーマルモードで43コマ撮影するのが一番効率的なようですが、画像データを圧縮するベーシックモードでは84コマの撮影が可能となります。

DS-505Aの特徴として、アナログビデオ出力端子を装備したことによりカメラからTVモニターに直結して画像をチェックできるほか、メモリーカードに記録した画像データをハンディトランスミッター(HT-220)によって、公衆電話や携帯電話から遠隔地のパソコンへ伝送することができます。機材の多いカメラマンにとっては現場にパソコンを持参する必要がなくなるわけです。

今回のテスト撮影では予想以上の高画質が得られ、プリントおよび印刷までのデータ処理の速さ、通信による利便性とともに、デジタルカメラそしてデジタル写真そのものの可能性を再認識させられました。

コダック&キヤノン		
EOS/DCS 1	(600万画素) ISO 80	3,600,000円
EOS/DCS 3	(130万画素) ISO 200-1600	1,980,000円
EOS/DCS 5	(150万画素) ISO 100-400	1,490,000円

コダック&ニコン		
DCS460	(600万画素) ISO 80	3,490,000円
DCS420	(150万画素) ISO 100-400	1,490,000円
DCS410	(150万画素) ISO 100	999,000円

フジ&ニコン		
DS-505A/E2N	(130万画素) ISO 800-3200 F6.7	890,000円
DS-515A/E2NS	(連写タイプ、近日発売)	1,300,000円

ミノルタ		
RD-175	(175万画素) ISO 800 F6.7	680,000円

なお、デジタルカメラのテストにあたり、キヤノン販売株式会社と富士写真フィルム株式会社には無理をお聞きいただき、両社デモ機材の混んだスケジュールの中、各カメラを提供していただきました。

また、キヤノンサロンの西田勇氏と堀内カラー新宿の内田幸雄氏にはデジタルカメラやパソコンの操作にあたり、初心者の私のために文字どおり手とり足とり貴重なアドバイスをいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

## REPORT コダックエクタクロームプロフェッショナル E100S、E100SWについて

7月に発売されたE100SとE100SWのフィルムについてまず特質される点は、増感特性が飛躍的に良くなっています。従来品に比べ+1絞り(ISO200)、+2絞り(ISO400)、+3絞り(ISO640)と、きっちりと感度が上がり、カラーバランスも良好です。また、試しに+4絞り(ISO1200)もテストしましたが、実用的には+3絞りまでがベストだと思います。

私の仕事の一つのJリーグ撮影では、現在、E100SW(ウォームトーン)の使用が増え、以前では考えられなかつたナイター撮影でも+3絞り(ISO640)CC10Mフィルターで撮影することが多くなりました。

ナイターの撮影の際、しばしば発生するグリーンかぶりを暖色系のE100SWは良好に抑え、人物の肌色、フィールドの芝の色を鮮やかに再現し、またその粒状性、黒の綺まり、シャープネスには好感がもてます。

標準タイプのE100Sは、ゲーム、ストロボ撮影、といった色

再現に忠実な撮影の時に使用しています。

E100S、E100SWは、共にラチチュードが広く、フィルム間の品質均一性が高くなり、エマルジョンが変わるとテストをするというような必要がまったく無くなり非常に楽になりました。

伊藤隆司

★ ★ ★

コダックE100Sのフィルムを使うときは、増感することを前提とした使い方をしています。したがって増感したときの粒状性、発色、ディテールの再現などはどうなのでしょうか。今までのフィルム(EPP、EPZ、PRP)などと比べてまったく違った点は、マゼンタの色彩カブリがなく安定した発色が望めることです。ただ、増感+1まではふつうに撮りますが、+2はISO300、+3はISO500で撮らないと指定した感度に上がらないことが気になりました。

松本 正

## TOPICS

### 「ペンタックス MZ-5」がヨーロッパ2大賞受賞



旭光学工業株式会社の小型・軽量AF一眼レフカメラ「ペンタックスMZ-5」がTIPAベスト・ヨーロピアン・製品賞の'96-'97ベスト・一眼レフカメラ・オブ・ザ・イヤーにつづいて「ヨーロピアン・カメラ・オブ・ザ・イヤー'96-'97」を受賞した。

「ヨーロピアン・カメラ・オブ・ザ・イヤー'96-'97」はヨーロッパを代表するカメラ誌15誌の編集長とテクニカル・エディターが厳しい選考基準の下で選ぶ権威ある賞。「ペンタックス MZ-5」は超軽量ボディーと卓抜したデザイン、

## 冬季スポーツスケジュール

### オリソック大会前の国際競技大会開催日時

競技大会の種別	開催期間	開催場所
アイスホッケー招待試合	96.12.16	長野市
クロスカントリー ワールドカップ	97.1.8	白馬村
スキージャンプ ワールドカップ	97.1.23	白馬村
ノルディック複合 ワールドカップ	97.1.29	白馬村
フリースタイルスキー 世界選手権	97.2.2	長野市
リュージュ ワールドカップ	97.2.10	長野市
スピードスケート 世界選手権	97.2.11	長野市
スノーボード ワールドカップ	97.2.14	志賀高原
ボブスレー ワールドカップ	97.2.19	長野市
アルペンスキー(ズボット女子) ワールドカップ	97.3.1	白馬村
バイアスロン ワールドカップ	97.3.3	野沢温泉村
アルペンスキー(技術系男子) ワールドカップ	97.3.8	志賀高原
カーリング 世界ジュニア選手権	97.3.22	軽井沢町
ショートトラックスピードスケート世界選手権	97.3.27	長野市
フィギュアスケート NHK杯	97.12.11	長野市

### '96年~'97年バイアスロンワールドカップカレンダー

1	96.11.30	~	12.1	Lillehammer/NOR
2	96.12.5	~	12.8	Ostersund/SWE
3	96.12.12	~	12.15	Hormenkon/NOR
4	97.1.4	~	1.5	Oberhof/GER
5	97.1.9	~	1.12	Ruhpolding/GER
6	97.1.16	~	1.19	Anterselva/ITA
7	97.3.5	~	3.9	Nagano/JPN
8	97.3.13	~	3.16	Novosibirsk/RUS

スプリント、バシュート  
個人、スプリント、リレー  
スプリント、バシュート、リレー  
スプリント、バシュート  
個人、スプリント、チームコンペ  
個人、スプリント、リレー  
個人、スプリント、リレー  
個人、スプリント、MS(団体スタート)

そして手頃な価格でありながら合理的且つ伝統的な操作部の配置によりカメラ操作を楽しくさせると評価された。

★ ★ ★

ニコンからAPS一眼レフカメラ「プロネア600i」  
12月12日新発売



株式会社ニコンからAF一眼レフカメラとしての基本性能、魅力はそのままにAPSのメリットを充分に活かしたカメラ「プロネア600i」が発売される。

Fマウントのため既存のAFニッコールレンズが使用可能。APSの多彩な機能を利用しながら、一眼レフとして作家のイメージを大切にした写真作りができる。

APSは135システムよりフィ

ルムの画面サイズが小さいため同じレンズでも画角が異なり、135システムの約1.25倍の焦点距離に相当する画角となる。スポーツ写真に新しい撮影技法を与えてくれるかもしれない。

希望小売価格(税別)  
ボディ本体 ¥83,000  
(ストラップ、接眼目当て、アイピースキャップ付)  
IXニッコール24mm~70mm  
F3.5~5.6付 ¥107,000  
(IXニッコールはプロネア600i専用です)

★ ★ ★

45mmワイドレンズ装着の  
GA645W。  
富士写真フィルムより誕生



ハイブリットオートフォーカスをはじめ、優れた機能が実現した高い操作性。コンパクトボディが生み出す軽快なフットワーク。しかも、撮影枚数は120ロールで16枚、220ロールで32枚と35mmカメラなみ。GA645の高性能はそのままに、新たに焦点距離45mmのワイドレンズを装着したGA645W。遠近感を強調した風景写真、機動力が求められるスナップショットなどで、確かな描写力が冴える1台。

希望小売価格(税別) ¥165,000

高画質を描くスーパーEB-Cフィルム 1:4 f=45mmはGA645Wのために新たに開発されたワイドレンズ(35mm判換算でf=28mm相当)。

GA645と同様、独自のスーパーEB-Cマルチコーティングを施し、ゴーストやフレアーも数ほとんどなく、歪曲収差をはじめとする諸収差についても完璧に近い補正を実現。周辺部の光景やシャープネス、色再現、階調描写など、あらゆる面でバランスのとれた高性能レンズ。

★ ★ ★

# 新賛助会員の皆様より

今年度より、すでに7社の皆様に賛助会員としてご協力いただいておりますが、更に3社より賛助会員としてご参加いただきける運びとなり、入会手続きが整いましたので、ここに紹介させていただきます。

**SHASHIN  
koshia**

株式会社写真弘社

窓口：サービスセンター  
住所：101 東京都千代田区  
鍛冶町 2-8-9  
TEL：03-3254-3521（代）  
FAX：03-3254-3583  
担当：本橋正義

**DESCENTE**

株式会社デサント

窓口：マーケティング室  
住所：543 大阪府大阪市  
天王寺区堂ヶ芝 1-11-3  
TEL：06-774-0371  
FAX：06-774-2605  
担当：古賀幹久

**MINOLTA**

ミノルタ株式会社

窓口：サービスセンター  
プロ窓口  
住所：160 東京都新宿区新宿  
3-17-5 カワセビル3F  
TEL：03-5269-2458  
FAX：03-3354-9890  
担当：田中光雄

特にプリントの分野では、日頃より多くの会員の方々にご利用いただき、誠にありがとうございます。

ことに、スポーツ写真の世界では機動性にすぐれた35ミリなどのカメラを多くご利用されていることと思います。各カメラメーカー、感光材料メーカーの研究開発の成果もあり、いまでは小型ボジフィルムから高品質の大型プリントを制作することが容易になります。皆様からのご注文におこたえできるようになりました。

写真弘社ではこれからも引き続き、皆様のご要望におこたえできますよう努力いたし、ご協力させていただきますので、ご意見などもお待ち致しております。ご期待ください。

日頃から A J P S 所属の皆様には大変お世話になります。この度は貴協会の賛助会員に加えさせて頂いたことを嬉しく思います。

当社はスポーツ専門メーカーとして、トップクラスの選手たちへのウェアサプライから得られる情報を商品開発に反映することの重要性を早くから認識し、とくにスキーの分野では、1970年代からスイス、カナダなどアルペン先進国へダウニヒルスーツなど最先端のウェアを供給してきました。

またレイクブレッシュ・オリンピックのスケートで、「エリック・ハイデン」選手のデサントスuitsを着用しての5冠王達成なども印象的な出来事でした。

現在ではあたりまえになったトップ選手に商品を供給するプロモーション戦略も、「頂上作戦」という当社独自の企業コンセプトであった訳です。

冬季オリンピック、サッカーワールド杯開催など日本でのイベントも目白押しですが、今後も世界のスポーツイベントには積極的に取り組んでいく所存です。

A J P S の皆様と共に当社もスポーツを盛り上げるため努力してまいりますので宜しくお願いいたします。皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

スポーツが年々盛んになり、その人口も確実に増加しているスポーツ界において、写真を通じてそのスポーツの良さを全世界の人達に知らしめる役割を果たしてきている日本スポーツプレス協会に、ミノルタも賛助させていただくことになりました。当会も来年で創立20年を迎える歴史のある協会であり、ミノルタとしても協会の発展を全面的にご支援させていただきたいと考えております。

会員の皆様の窓口としまして、本年5月より新宿サービスセンターの一角にプロサービスの窓口を開設いたしました。プロサービスの充実を図るとともに、機材点検、貸し出しなど、日頃のコミュニケーションを密にできる体制を整えておりますので、お気軽にお越しをお待ちしています。

また、ミノルタフォトスペースも会員皆様の写真活動発表の場として、積極的にご利用くださいますようお願いいたします。

## 堀内カラー デジタルカメラ DC20 が当たる フィルムお買い得キャンペーンのご案内



堀内カラーでは、11月1日（金）から12月27日（金）まで、コダックE100S/SWフィルムの新発売を記念して、コダックデジタルカメラDC20が抽選で100台当たるフィルムキャンペーンを実施しております。

内容は、期間中に堀内カラーでコダッククリバーサルフィルムを3,000円お買い上げごとにデジタルカメラDC20が1台当たる抽選券を1枚と、その場でおたのしみグッズが当たる三角スピードクジを1枚差し上げます。3,000円で抽選券とスピードクジの2回おたのしみいただけるWチャンスとなっております。（DC20の抽選は平成9年1月6日に行います）

また、キャンペーン期間中に限り、堀内カラー店頭にて現金のE100S 特別販売価格を設けさせていただいております。フィルムの種類と価格は次の通りです。

E100S	120	プロテン	現金特別販売価格	4,000円	（通常価格 4,405円）
E100S	135	プロテン	現金特別販売価格	7,500円	（通常価格 8,250円）
E100SW	135	20本入り	現金特別販売価格	14,000円	（通常価格 15,440円）
			ぜひ、この期間中にコダッククリバーサルフィルムを堀内カラーでお買い求めください。お待ち申し上げております。なお、詳しい内容は店頭、もしくは営業までお問い合わせください。		

（株）堀内カラー 東京本部 森原正史

## 富士写真フィルム プロフォトグラファーヤングセミナー

チャレンジ精神旺盛なプロ写真家の方なら、誰でも参加できるオープンなセミナーです。

テーマ別に、現在活躍中の一流写真家の方々を講師に招いて開催いたします。講師を囲んでの楽しい懇談会も予定。ふるってご参加ください。

日時：平成8年11月28日（木）午後5:30～午後8:30  
会場：富士フィルム本社ホール

テーマ：「デジタル写真処理を前提とした撮影の方法について」  
実際にフォートンで制作した広告の作例を用いて実践に役立つ方法論を具体的に説明します。

講師：西山慧（フォートン株式会社常務取締役制作部長）  
定員：150名

・スケジュール 5:30～7:30 講演  
7:30～8:30 講師を囲んでの懇談会

問い合わせは富士写真フィルム（株）コマーシャルフォト課  
プログループ03-3406-2069まで。

## サッカー協会から感謝状

（財）日本サッカー協会は今年75周年を迎え、日本スポーツ協会は、感謝状をいただきました。9月中旬の記念式典に於いて記念のクリスタルカップ、75周年史、そして感謝状をいただきました。

## 写真集「FIGURE SKATING 美の世界」

岸本健 篠原貞幸 芳賀伸哉 岸本勉

銀盤の上で高度なスケーティングの技術を駆使し、華麗な演技を繰り広げるフィギュアスケート。日本では、1972年の札幌オリンピックでジャネット・リンが人気を博して以来、冬季競技の中でもポピュラーなスポーツとしてついに見るものを持ちました。

1989年世界選手権女子シングルスで優勝し、1992年アルベールビルオリンピックで3回転半ジャンプを成功させたみどり銀メダリストに輝いた伊藤みどり、史上年最少の全日本チャンピオンとして脚光を浴びている本田武史選手等の日本を代表する選手ほか、世界の一流スケーターの特集、また、今年カナダのエドモントンで開催された世界フィギュアスケート選手権大会ハイライ ISBN4-89610-708-X など、美しい写真でまとめられています。

## 写真集「氷上の戦い」

内ヶ崎誠之助

内ヶ崎誠之助氏が10年以上撮影してきたNHL（ナショナル・ホッケー・リーグ）やカナダ・カップ、そしてオリンピック（カルガリー、アルベールビル、リレハンメル）のアイスホッケー写真集。長野オリンピックに出現しそうなNHLのスーパースターも紹介されている。また、資料としてNHLの概要やチームの紹介、オリンピック、世界選手権の歴代記録などを収録されている。この資料とともに写真を見ていくと、世界のアイスホッケーの勢いがつかめる本でもある。国内のトップリーグである日本リーグの歴史や成績、チーム紹介も含まれている。



全112ページ ハードカバー  
発行 ベースボール・マガジン社  
定価 4,000円（税込）  
ISBN4-583-03333-8

会員の皆様へ AJPSニュースは皆様からの情報をお待ちしております。催しもの、出版物、写真展などなど事務局までお寄せください。次回は来年5月発行予定です。

編集後記 今回表紙の写真をお願いした、内ヶ崎氏に写真展会場でお会いしました。カナダに移り住んで丸3年、今年の夏家族でオリンピック放送を見ていた子供たちの反応にショックを受けたという氏。2歳で日本を離れた次女は、全く日本を応援せず、逆に「なぜ弱い日本選手はそんなに声援を送るの？」と聞き返されたというのです。彼の胸中を探るにあまりあると言うのも、私は日本選手の金メダルの表彰台で、君が代を齊唱するタイプだからです。

思えば2年前、リレハンメルでの夜の表彰式に「二番」のはまきで現われた原田選手以下の日本のジャンプ陣と引い損ねた君が代を、長野の夜に歌いたいものだと思うのは私だけではないでしょう。

いいよいよ冬のシーズン到来で、ゲレオリンピックのスケジュールを見る時、なにもかもうまくいく、素晴らしい大会になって欲しいと思わざにはいられないのです。

S. A.



日本スポーツプレス協会会報 NO.12      1996年11月20日発行  
編集・発行人      水谷章人  
編集スタッフ      赤木真二 山崎浩子 荒川雅臣 兼子慎一郎  
編集協力      竹内里摩子 朝霞電腦  
編集・発行所      日本スポーツプレス協会 (AJPS)  
〒112 東京都文京区音羽1-26-14, マルサビル401  
TEL&FAX 03-3946-9033  
本誌掲載記事、写真の無断転載を禁じます